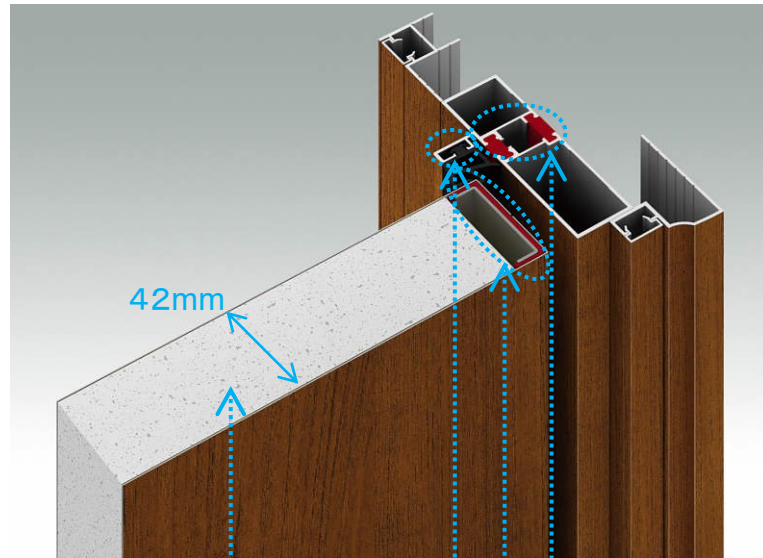
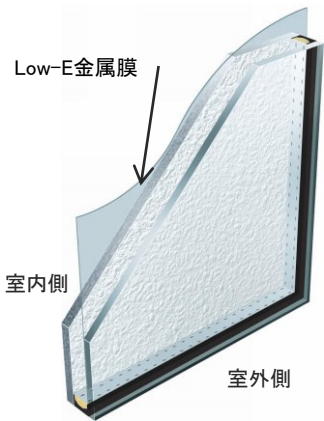


□ 断熱ドア D2仕様



- 断熱パネルドア (42mm厚・辺縁部熱遮断構造)
- +
- 断熱枠
- +
- Low-E複層ガラス

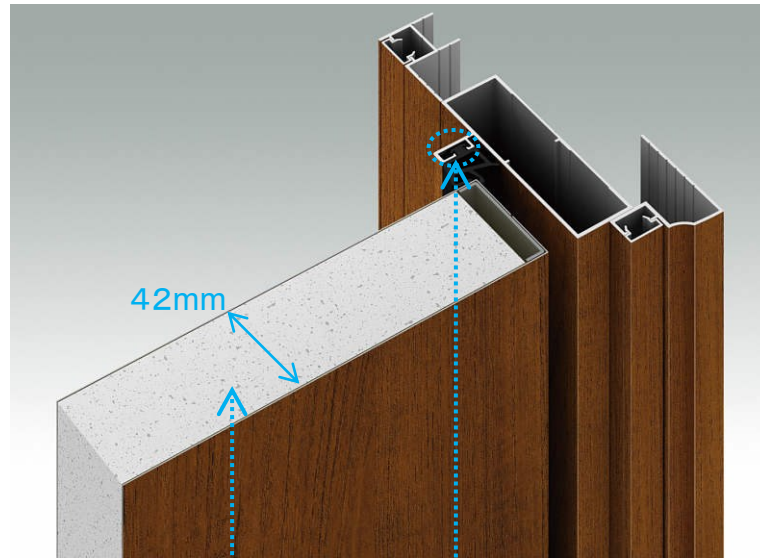
断熱材
気密材
辺縁部熱遮断構造
枠断熱ライン



複層ガラスの断熱性能をさらに高め温室効果を加えたLow-E複層ガラス。室外側ガラスの中空層側にコーティングされたLow-E金属膜が太陽熱を取り入れ、また室内の熱を外へ逃しません。

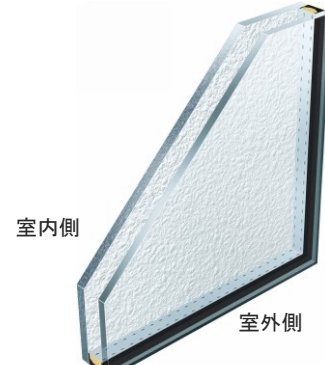
※ 袖FIX部のLow-E合わせ複層ガラスの場合、Low-E金属膜は室内側ガラスの中空層側に付きます。

□ 断熱ドア D4仕様



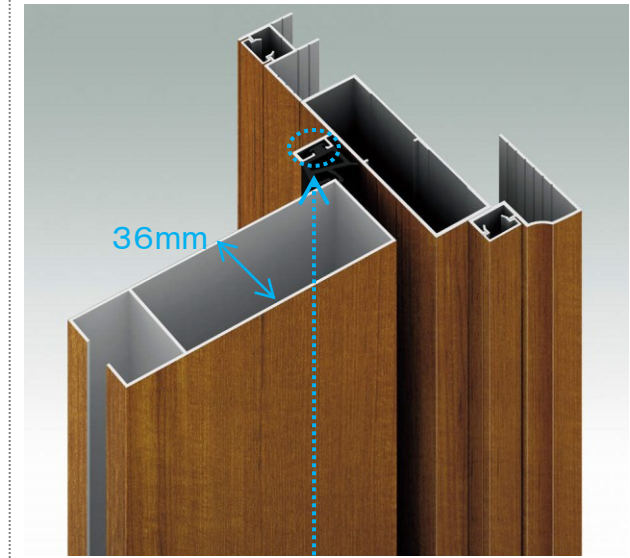
- 断熱パネルドア (42mm厚)
- +
- アルミ型材枠
- +
- 複層ガラス

断熱材
気密材



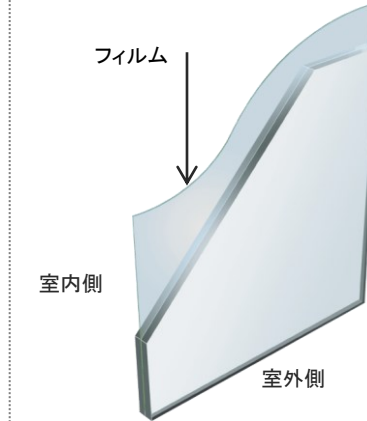
2枚の板ガラスの間に乾燥空気を密封し熱の伝わりを抑えたもの。ガラスを破るのに手間がかかり、ガラス破片を取り除きにくいなど、防犯性にも優れています。

□ アルミドア



- アルミドア
- +
- アルミ型材枠
- +
- 合わせガラス

気密材



ガラスの間に弾力性のあるフィルムを挟み込むことで破壊しにくくなっています。

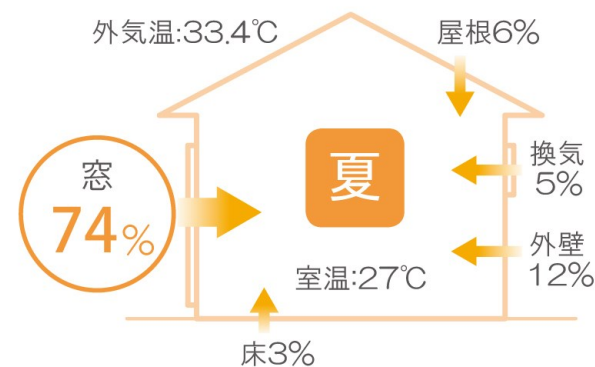
「開口部」は熱の出入りが一番多い場所です。

窓やドアから出入りする熱は、屋根や外壁よりもはるかに大きな割合を占めています。

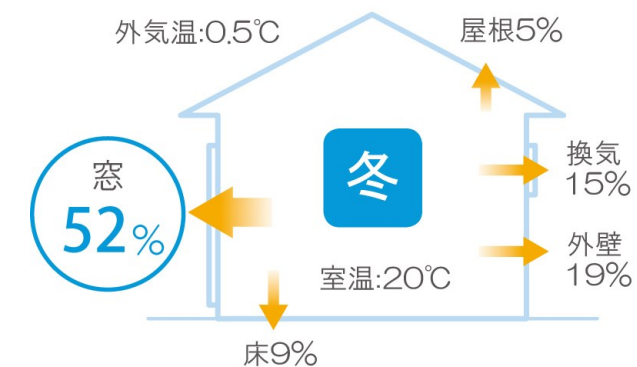
開口部を断熱化すると冬は暖房の効きが良くなり、夏は熱流入を軽減できるため、部屋のいごちが快適になると共に、冷暖房費も節約できます。

- 【算出条件 窓からの熱の流入出比率】
- 使用ソフト：AE-Sim/Heat(建築の温熱環境シミュレーションプログラム)/(株)建築環境ソリューションズ
 - 気象データ：「拡張メダス気象データ」2000年版 標準年/(一社)日本建築学会
 - 住宅モデル：2階建て/延床面積：120.08㎡/開口部面積：32.2㎡(4~8地域)「平成25年省エネルギー基準に準拠した算定・判断の方法及び解説Ⅱ 住宅」標準住戸のプラン
 - 躯体：平成28年省エネルギー基準レベル相当
 - 窓種：アルミ(複層ガラス)

夏に流入する熱の割合 外気温 33.4℃
選定日：日平均外気温の最大日、8月10日14~15時、東京



冬に流出する熱の割合 外気温 0.5℃
選定日：日平均外気温の最低日、2月24日5~6時、東京



※商品の色は、印刷の特性上、実物と多少異なる場合がありますのでご了承ください。